

## 日本鳥学会 2018 年度評議員会報告

日 時：2018 年 9 月 14 (金) 18:00-22:20

場 所：新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究  
棟 F 棟 2 階 F271 教室

出席評議員：尾崎清明 (会長)・植田睦之 (和文誌  
編集委員長)・亀田佳代子・川上和人・  
齋藤武馬 (鳥類分類委員長)・嶋田哲郎  
(庶務幹事)・高木昌興・永田尚志 (大会  
会長)・西海 功・濱尾章二 (基金運営  
委員長・図書管理委員)・早矢仕有子・  
日野輝明・山口典之・山崎剛史 (自然史  
学会連合担当)・綿貫 豊 (副会長)

各種委員会代表等：新妻靖章 (英文誌編集委員  
長)・佐藤重穂 (鳥類保護委員長)・金井  
裕 (日本産鳥類記録委員長)・牛山克巳  
(企画委員長)・森 さやか (広報委員長)

事務局：浅井芝樹 (事務局長)・安藤温子 (会計幹  
事)

監 事：山口恭弘

### 報告・審議事項

- 1) 各種委員会報告 (報告内容については委員会  
報告を参照)
- 2) 事務局関係報告
  - a) 会員動向
  - b) 2017 年度決算報告 (和文誌 67 巻 2 号に掲  
載)
  - c) 2018 年度会計予算の執行状況の報告
- 3) 審議事項
  - a) 次期各種委員会体制に関する審議  
和文誌編集委員会：橋本啓史・渡部良樹が  
退任し、片山直樹が就任。英文誌編集委員  
会：綿貫 豊が退任。企画委員会：藤原宏  
子が退任し、中原 亨・山本麻希が就任。
  - b) 2019 年度予算案  
2019 年度予算案が諮られ、承認された。
  - c) 目録編集委員会の設置  
目録編集委員会の設置が諮られ、承認され  
た。
  - d) 2019 年度大会開催地  
評議員会冒頭で森大会会長より挨拶がなさ  
れた。
  - e) 2020 年度大会開催候補地  
2020 年度大会開催候補地 (東京農業大学北  
海道オホーツクキャンパス) について審  
議、承認された。

- d) 大会準備金の予算  
大会準備金の増額案について諮られ、承認  
された。
- e) 規約改定  
ゆうちょ銀行口座開設にかかる団体所在地  
明記のための規約改定が諮られ、承認され  
た。

## 日本鳥学会 2018 年度総会議事報告

2018 年 9 月 16 日 (日) 16:00-17:40 (新潟大学  
五十嵐キャンパス総合教育研究棟 E 棟 E260 大会  
議室：開会宣言、会長挨拶、大会会長挨拶、総会  
成立確認の後、永田尚志氏を議長に選出し、以下  
の報告が行われた。

- 1) 事務局報告 (評議員会報告を参照)
  - 2) 評議員会報告 (評議員会報告を参照)
  - 3) 各種委員会報告 (各種委員会報告を参照)
- 以下の議事が審議され、承認された。

- 1) 2017 年度会計決算／監査報告
- 2) 2019 年度予算案
- 3) 規約改定

日本鳥学会ポスター賞授与のあと、2019 年度  
大会開催予定地 (帝京科学大学、東京) につい  
て森 貴久大会会長より紹介、挨拶がなされた。  
閉会宣言にて終了。

### 和文誌編集委員会報告

- 1) 日本鳥学会誌発行状況  
66 巻 2 号を 10 月に 67 巻 1 号を 4 月に発行した。  
Editor's Choice「注目論文」はそれぞれ、内田さん  
のコサギの減少、小林さんらのライチョウ群れ構  
成と標高移動の論文に決まった。2 号は 10 月発行  
に向けて現在印刷中であり、予定どおり発行でき  
る予定である。

1 号 (4 月) 特集 4, 原著 2, 短報 3, 観  
察記録 4

2 号 (10 月) 原著 1, 短報 3, 観察記録 5

- 2) 日本鳥学会誌編集状況

2018 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに受け付け  
た投稿状況および前年からの繰り越し分を含めた  
原稿の編集状況は以下のとおりである。

|     | 総説 | 原著 | 短報 | 意見 | 観察記録 |
|-----|----|----|----|----|------|
| 繰越  | 2  | 6  | 4  | 1  | 7    |
| 投稿  | 4  | 15 | 6  | 0  | 10   |
| 受付  | 4  | 15 | 6  | 0  | 9    |
| 受理  | 2  | 8  | 4  | 1  | 10   |
| 編集中 | 4  | 12 | 5  | 0  | 6    |
| 不受理 | 0  | 1  | 1  | 0  | 0    |

### 3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間（2017 年 1 月–2017 年 12 月）の和文誌掲載論文（2006 年第 55 巻–2017 年第 66 巻）に対する全文 PDF アクセス数は昨年の約 1.4 倍にあたる 37,369 件だった。国別内訳は、昨年の集計と異なり日本だけで 87% を占め、その他の国はごくわずかとなった。この要因はアメリカからのアクセスの大幅な減少にある（2016 年：35%，2017 年：7%）。掲載の種類で比較すると総説（掲載数：9%，アクセス数：24%）、対象の分類群で比較すると特定種に限定しない原稿（掲載数：15%，アクセス数：29%）に対するアクセス数が多い傾向が見られた以外は、掲載数の比率と大きな違いはなかった。

### 4) フォーラムへの自由集会報告の掲載

昨年度から積極的に掲載することになったフォーラムへの自由集会報告の掲載は、開催された自由集会 12 件のうち 5 件の報告を掲載した。そのうち 4 件については鳥学通信へも掲載された。

（和文誌編集委員長）

## 英文誌編集委員会報告

### 1) 発行状況

第 17 巻 1 号（原著論文 6 編・総説 1 編・短報 6 編）を 1 月、2 号（原著論文 8 編・総説 1 編・短報 4 編）を 7 月に発行した。

### 2) 編集状況

2018 年 1 月–12 月（1/12 現在）

総投稿数 33（前年比 0.75 倍）

受理数 5 採択率 41.6% [受理数／（総投稿数－審査中数－取り下げ数）]

審査中 21

取り下げ 0

却下数 7（うち編集委員会却下数 2）

（英文誌編集委員長）

## 鳥類保護委員会報告

### 1) 過去の決議や要望書の提出後の経緯

#### a) 上関原子力発電所建設計画に係る希少鳥類保護に関する要望書（2008 年度大会決議）

山口県が建設予定地の公有水面埋め立て免許延長の可否判断を先送りした件で、山口地裁は 2018 年 7 月 11 日に中国電力による海面埋め立ての免許の延長は違法との判決を下した判断した。また、この裁判とは別の上関原発自然の権利訴訟及び公有水面埋立事業免許取消及び延長許可失効確認訴訟の二つの裁判では、原告適格に絞った中間判決が 2019 年 1 月 23 日に出される予定である。

#### b) 伊豆諸島御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ集団繁殖地の保全を求める要望書（2016 年 11 月提出）

2018 年 8 月に外来ネコ問題研究の主催するシンポジウムについて鳥類保護委員会に後援依頼があったが、学会事務局と調整した結果、日本鳥学会が後援した。ノネコ問題は日本哺乳類学会でも議論されており、今後、哺乳類学会や生態学会との連携を促す。

#### c) 岩手県北上高地のイヌワシ生息地の保全を求める意見書、および北海道北部地域の風力発電施設建設計画地における鳥類生息地の保全を求める要望書（いずれも 2017 年 7 月提出）

北上高地については経済産業大臣、環境大臣、岩手県知事宛てに、北海道北部地域については経済産業大臣、環境大臣、北海道知事宛てにそれぞれ提出した。いずれも我が国の鳥類の重要な生息地に複数の風力発電施設が計画されていることに対して、保全の対策を講じるように要望するものである。

これらの意見書の内容について、2017 年 12 月に経済産業省電力安全課、環境省環境影響評価課、同野生生物課の各担当者と鳥類保護委員会とで意見交換を行い、保全の必要性について理解を求めるとともに、今後、情報提供等について協力していくことを確認した。

### 2) 大規模太陽光発電施設に関する問題

各地で大規模な太陽光発電施設の建設が進んでいるが、学会会員からの提案に基づき、これらが鳥類生息地へ及ぼす影響について、環境省への意

見書の提出を検討している。なお、日本野鳥の会からすでにこの案件について環境省へ要望書を提出されており、同会と情報交換を進めるとともに、鳥類保護委員会からの意見書の提出の可否、およびその内容について、検討を進める。

### 3) その他の鳥類保護に関する案件

千島列島のシジュウカラガン繁殖地、徳島県のカムリウミスズメ繁殖地、伊豆・小笠原諸島のアホウドリの繁殖地、南西諸島の希少種の生息地の保全などについて協議して、引き続き、委員会として注目していくことを確認した。また、風力発電施設、環境アセスメント制度、SDGs（持続可能な開発目標）と鳥類の保全との関連、鳥獣の保護管理体制などについて協議を行った。

### 4) 委員会ホームページの整備

当面、委員長と副委員長で鳥類保護委員会のホームページを管理する。これまでの大会決議や委員会から提出した意見書、および年度ごとの活動報告等を掲載することとして、2017年1月から運営を開始している。

（鳥類保護委員長）

## 日本産鳥類記録委員会報告

1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応  
目録第7版の記述のうち、各地の生息記録に関する一般、もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った。

### 2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録6版から7版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い、資料として整理する作業を実行中である。

### 3) 鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録、各地鳥類相、標本目録等の記述が掲載されている、日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様、ある程度まとまりがついたところで、随時和文誌上に公表していく予定である。

### 4) 日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録、個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った。

### 5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力

当委員会の委員を通して要請があった場合に限って、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。

### 6) 目録第8版編集について

目録第8版の編集について、体制（編集委員の人选など）、作業内容について分類委員会とも連絡をとりながら協議した。

（日本産鳥類記録委員長）

## 鳥類分類委員会報告

### 1) 分類体系の変遷に関する解説の公表状況

日本鳥類目録改訂第6版から第7版への分類体系の変遷の解説については、目録の出版後、その一部を日本鳥学会誌に発表してきたが、まだ全体を網羅できていない。そのため、引き続きこの作業に取り組む。現在は、上記の解説に加え、次版の目録改訂第8版の内容も見据えた分類の見直しについての内容も含め、解説を作成する作業に着手している。

### 2) 目録第8版出版に関する検討の状況

本委員会では、臨時委員会である目録編集委員会の発足について、日本産鳥類記録委員会と共にその体制についての具体的な検討を進め、今年度の鳥学会大会に合わせて行われた評議員会と総会にて、臨時委員会の立ち上げが承認された。その結果、本委員会のメンバー全員が目録編集委員会の委員も兼任することとなった。今後も常設委員会である分類委員会の作業を行いつつ、目録編集委員会の作業もサポートしていく。

（鳥類分類委員長）

## 目録編集委員会報告

### 1) 目録編集委員会の立ち上げと体制について

2018年9月14日に新潟大学で行われた、鳥類分類委員会・日本産鳥類記録委員会の合同委員会において、日本鳥類目録改訂第8版を発行するための臨時委員会、目録編集委員会の立ち上げについて議論が行われた。同日の評議員会において同委員会の設置が承認され、運営がスタートした。体制は以下のとおりである。

### 目録編集委員会

委員長：西海 功

副委員長：金井 裕・山崎剛史

運営委員：小田谷嘉弥・亀谷辰朗・齋藤武馬・平岡 考・山崎剛史

分類専門委員：鳥類分類委員会の委員全員（亀谷辰朗・齋藤武馬・西海 功・平岡考・山崎剛史）

記録専門委員：記録委員会の委員全員（板谷浩



男・池長裕史・大西敏一・小田谷嘉  
弥・梶田 学・金井 裕・亀谷辰朗・  
先崎理之・高木慎介・平岡 考)

## 2) 活動報告

2018 年 12 月 20 日に第一回運営委員会を山階鳥  
類研究所にて開催し、分類専門委員、記録専門委  
員が取り組むべき課題とスケジュールの整理を  
行った。

(目録編集委員長)

## 企画委員会報告

### 1) 鳥の学校

日本鳥学会 2018 年大会にあわせ、9 月 17 日～  
19 日に鳥の学校テーマ別講習会「鳥類研究のため  
のバイオロギング野外実習」を開催した（本号に  
報告記事掲載）。

### 2) 男女共同参画関連

第 16 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム  
が 2018 年 10 月 13 日に建築会館ホールで開催され、  
堀江明香委員が日本鳥学会を代表して参加した。

### 3) 第 3 回日本鳥学会ポスター賞の実施

2018 年大会においてポスター賞を実施し、生  
態・行動分野で清水拓海氏（慶應義塾大学）を、  
保全・形態・遺伝・生理・その他の分野で青木大  
輔氏（北海道大学）を選出・推薦し、学会長の承  
認を得て決定された。2018 年大会総会において授  
賞式を行い、受賞者には株式会社モンベルより記  
念品が贈呈された（本号に報告記事掲載）。

### 4) 若手科学者ネットワークへの参加

第 3 回若手科学者サミットが 2018 年 6 月 4 日、  
日本学術会議・講堂にて開催され、佐藤 望委員  
が出席した。

(企画委員長)

## 広報委員会報告

### 1) ウェブサイトの修正

英文サイト、和文サイトのリンク切れの修正を進  
めた。404 エラーページが無かったので作成した。

### 2) ウェブサイトの日々の更新

事務局、各委員会などから、月に数回の変更の  
依頼（最も多いのはお知らせ）が来ているが、ほ  
ぼ数日以内に処理をできている。今後もこの速度  
を継続する。

### 3) 2018 年度大会のサイトを鳥学会のサーバーに 開設

2016 年度大会以降、年次大会のウェブサイトを  
学会と同じサーバー（さくらネット）に置くこと

で大会終了後もそのまま保存できるようになった。  
2018 年度大会も学会と同じサーバーにウェブサイト  
を開設した。また、大会長からの依頼により、  
前年度事務局の許可を得た上で前年度大会のウェ  
ブサイトをコピーしてテンプレートとして使用し  
た。2019 年度大会ウェブサイトも同様の形式で公  
開準備を進めている。

### 4) 鳥学通信の発行

2017 年 9 月 11 日から 2019 年 8 月 14 日までに  
24 件の記事が掲載された。内容は 1 報が黒田賞報  
告、3 報がポスター賞報告、4 報が自由集会報告、  
3 報が鳥の学校報告、1 報がその他の大会報告、2  
報が和文誌掲載論文広報、5 報が委員会連絡、5 報  
が研究・活動紹介だった。自由集会の大会報告は、  
今年度から和文誌委員会主導で和文誌に掲載後に、  
希望者は鳥学通信にも掲載することとしている。  
大会報告以外の広報委員会企画記事が 1 回の 2 報  
のみと少なかったため、今後積極的に記事を募  
集・依頼するようにしたい。全体としては、概ね  
月 2 報を目標とする。12 月からは、鳥学通信タイ  
トルスペースに、投稿募集の案内と投稿相談先を  
掲載するようにした。掲載依頼については、原稿  
受領後はほぼ数日以内に処理できているため、今後  
もこの速度を継続する。

(広報委員長)

## 基金運営委員会報告

### 1) 学会賞選考手順の作成

2018 年度から中村 司奨励賞が新設されたこと、  
学会賞の規定、運営指針が定められたことを受け  
て、各賞の選考を進める際の手順書を作成した。

### 2) 2018 年度学会賞

学会賞受賞候補者として黒田賞・鈴木俊貴氏、  
内田奨学賞・才木道雄氏、中村司奨励賞・加藤貴  
大氏を選定し、評議員会で承認された。詳細は前  
号（日本鳥学会誌 67 巻 2 号）で報告済み。

### 3) 伊藤基金による国際鳥類学会議の参加補助

IOC2018 派遣助成の候補者として、選考小委員  
会の選考結果報告を得て、澤田 明氏と青木大輔  
氏、及び次点・植村慎吾氏を推薦し、評議員会で  
承認された。詳細は前号で報告済み。

### 4) 2019 年度学会賞等

黒田賞、内田奨学賞、中村司奨励賞の募集を開始  
した。また、津戸基金によるシンポジウム開催助成  
の募集を 2019 年早々に開始すべく準備を行った。

(基金運営委員長)